

令和5年度 第5回県政参画電子アンケート
「公立鳥取環境大学第3期中期目標(素案)」に関するアンケート
結果概要

1 調査概要

- テーマ 「公立鳥取環境大学第3期中期目標(素案)」に関するアンケート
- 実施期間 令和5年6月30日～7月10日
- 対象 県政参画電子アンケート会員 754名
- 回答数 435名(回答率 57.69%)

2 目的・概要

公立鳥取環境大学は、「人と社会と自然との共生」の実現に貢献する人材の育成と創造的な学術研究を行うことを基本理念とし、平成13年4月の開学後、平成24年4月の公立化を経て、教育内容の充実を図るとともに、地域と連携した取組を進めてきました。

大学の運営にあたって、設立団体である鳥取県及び鳥取市は、大学の業務運営に関する目標(中期目標)を6年ごとに策定することとなっており、この度、令和6年度からの第3期中期目標の策定を進めているところです。

このことについて、第3期中期目標(素案)や、公立鳥取環境大学についてのご意見を伺うため、アンケートを実施しました。

<第3期中期目標(素案)>

公立大学法人公立鳥取環境大学第3期中期目標(素案)の概要

I 基本的な目標

○公立鳥取環境大学の理念(※)実現のため以下の人材の育成を目指す。

※『人社会自然の共生の実現に貢献する有為な人材の育成と創造的な学術研究を行うこと』

- ・豊かな人間性、環境問題や経営についての幅広い知識、高いコミュニケーション能力を備え、自ら考え行動力強く生きる人材
- ・持続可能な社会の発展を目指し、ローカルな視点とグローバルな視点をあわせ持つ、バランス感覚に優れた人材

○第3期中期目標策定方針として、以下の3点に留意する。

- ・公立鳥取環境大学としての特色の明確化(「環境」をテーマにした強みの明確化、小規模な大学の良さの発揮)
- ・変化し続ける社会への的確な対応(15歳人口の急減期の到来等、将来を見据えた取組、社会の変化に対応した教育環境の創出)
- ・鳥取の未来への貢献(地域社会との連携強化、産学官連携、地域に貢献する人材の輩出)

II 中期目標の期間

令和6年4月1日～令和12年3月31日

III 大学の教育等の質の向上に関する目標

人間形成教育を土台に「環境」「経営」の専門領域を深めるとともに、それぞれの知見を組み合わせることで、予測困難な未来を切り拓くための課題解決力を育む教育を実践する。また、デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換など、学修機能の一層の充実に取り組む。

○教育に関する目標

【教育内容・教育の実施体制】

- ・SDGs・カーボンニュートラルの達成に向け持続可能な社会の実現に資するグリーン人材の育成に取り組む。
- ・規模の小さな大学ならではの利点を活かし、学部間等で連携した特色ある融合的な教育を行う。
- ・自治体や産業界・地域団体等との共同研究や連携活動を通じ、地域発展に寄与する地域志向の人材の育成に取り組む。
- ・予測困難な未来を切り拓くための課題解決力を実践的な課題解決型学修を通じて培う。
- ・社会人や留学生等、多様な学生に対する教育の実施体制を整備する。

【就職支援・学生支援】

- ・入学から卒業まで、一貫した就職等支援を行うための体制を強化し、適切な支援を実施する。
- ・県内産業界等と連携した取組を行うなど、県内定着に向けた就職支援の充実に努める。
- ・多様な学生が安心して充実した学生生活を送られるよう、学生の修学、生活に関する適切な支援を実施する。

○研究に関する目標

- ・地域の知の拠点として、地域や大学の特性に応じた研究を推進し、地域の課題解決・発展に貢献する。
- ・持続可能な社会の実現と地域の豊かな生活実現に貢献するため、環境保全や地域社会等に係る研究を推進する。
- ・産学官民と連携した研究を積極的に進めるとともに、女性研究者や外国人研究者等を含め、全ての者が多様性を尊重しながら安心して取り組める研究環境を整備する。

○社会貢献・地域貢献に関する目標

- ・県民の学び直しや社会的に必要とされる専門人材育成等のニーズに対応した学びの場を提供する。
- ・産業界、地域団体、自治体、他大学等との連携強化と協働研究等の推進によるイノベーション創出等を積極的に進める。
- ・グローバルな視点を持った人材を育成するため、海外の大学等との連携、留学機会の提供や、英語力の向上に取り組む。

IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標

○健全かつ強固なガバナンスを構築し、安定的で持続可能な大学経営を行うため、変化し続ける社会への的確な対応に努め、常に点検・見直しが行なわれるための具体的な策を講じ、中長期的な視点をもって効率的、合理的な業務運営を図る。

V 安定的な経営確保・財務内容の改善に関する目標

○志願者を安定的に確保し、入学定員を充足させるほか、外部資金の獲得等収入の確保に努め、財政基盤の強化を図る。

VI 点検・評価・情報公開に関する目標

○自己点検・評価や外部評価の積極的な公表と、評価結果を活用したPDCAサイクルの運用により、改革・改善を推進する。
○特色ある教育や優れた研究成果などの強みや魅力をターゲットに応じて戦略的に発信し、大学のブランド力を向上させる。

VII その他業務運営に関する重要事項に関する目標

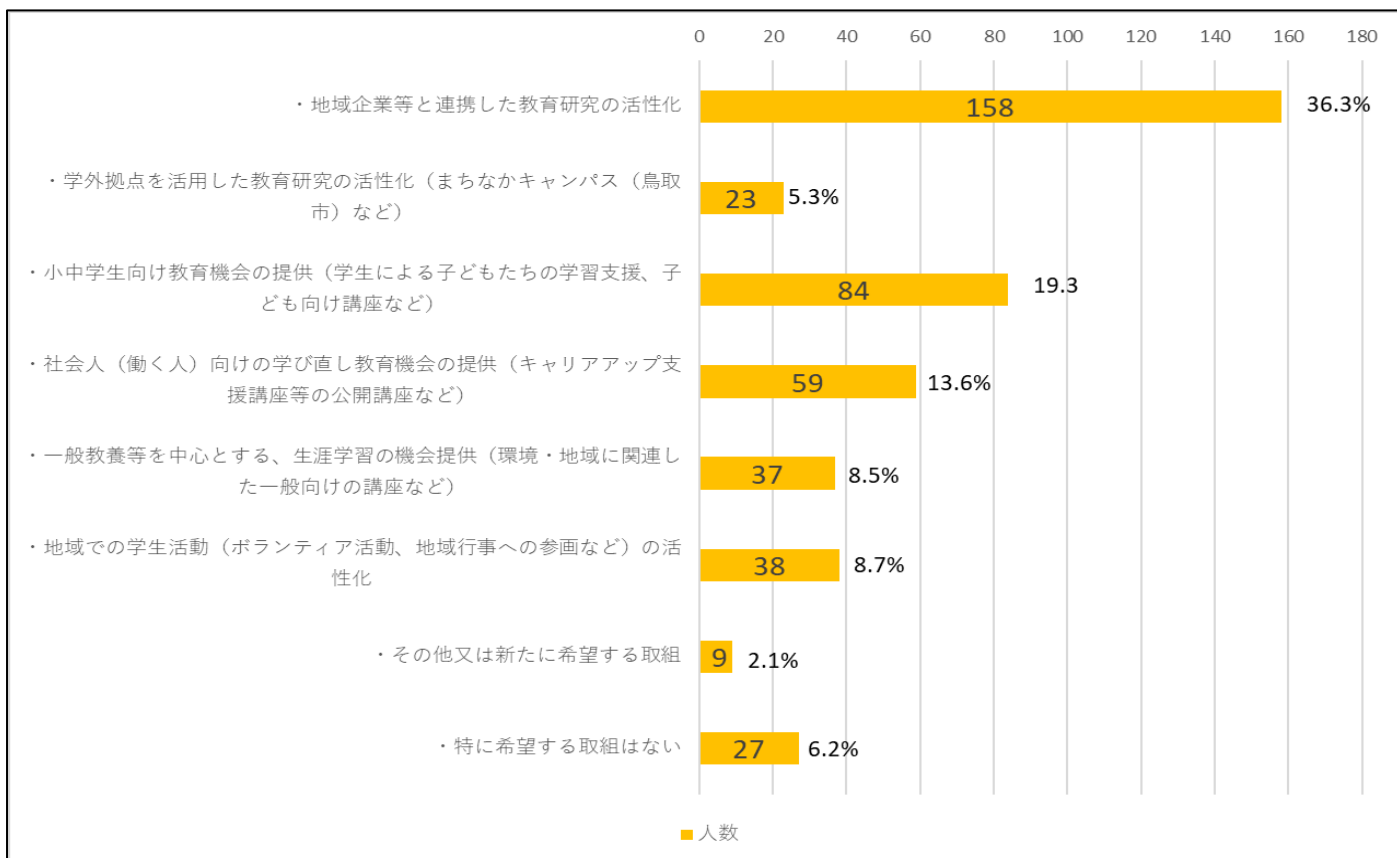
○「環境」をテーマとした大学として、大学キャンパスの環境負荷の軽減、カーボンニュートラルの実現に向けた教育・研究・地域連携・業務運営に努め、持続可能な社会の形成に貢献する。

達成すべき目標等(主なもの)

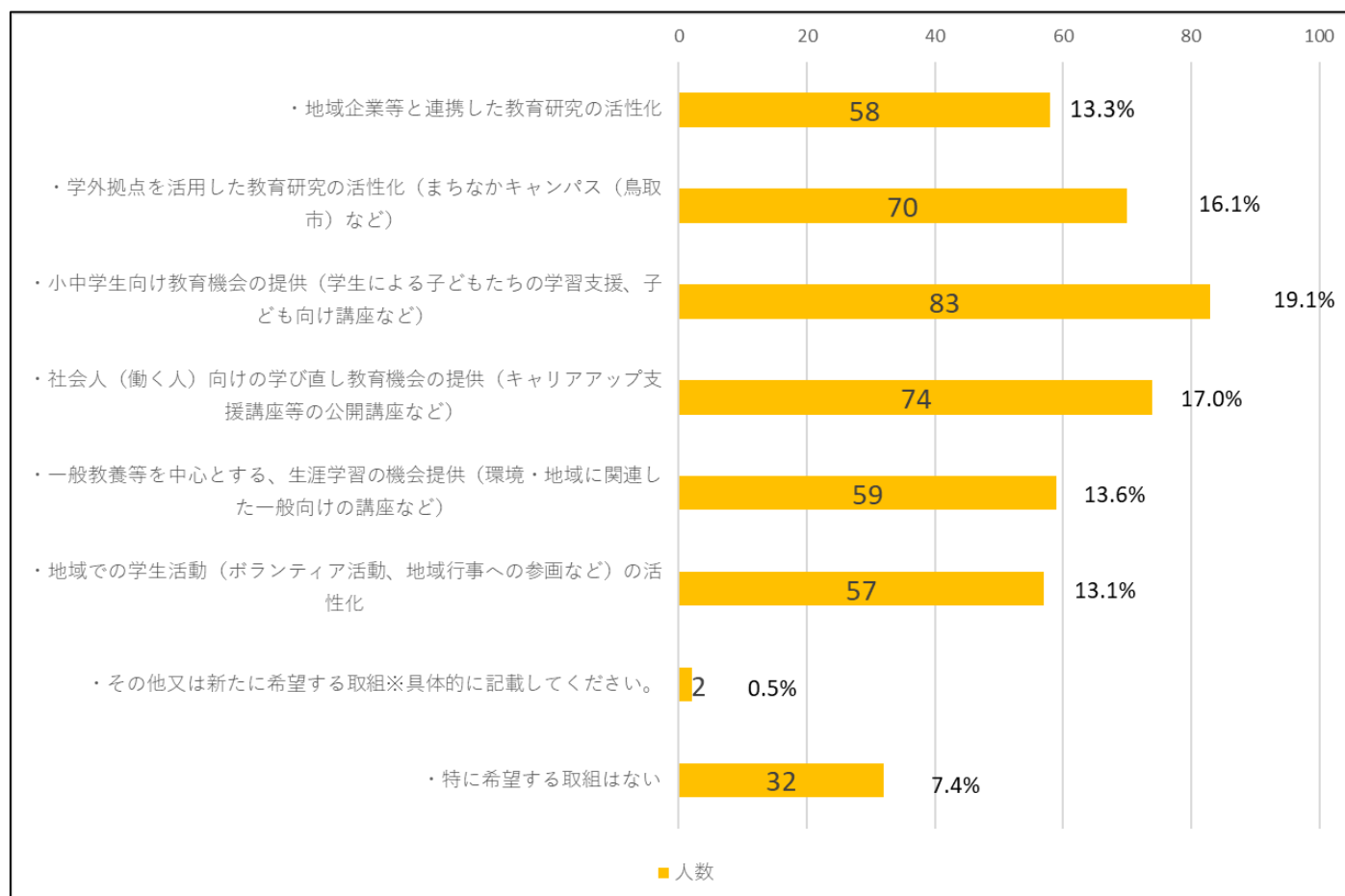
- ▶競争的外部資金の申請数[採択率]・・・近畿公立大の平均以上 (R4:29件(平均:20.5件)[27.6%(平均:21.8%)])
- ▶入学定員充足率・・・100%を維持(R5:106.7%)
- ▶学生の英語能力・・・CEFR B1レベル(英検2級など)以上を年間100人以上(R4:137人)
- ▶県内入学率・・・25%以上(R5:23.4%)
- ▶県内就職率・・・期間内に30%以上(R4:21.5%)
- ▶(新)教員の女性比率・・・期間内に23%以上(R4:21.2%)
- ▶(新)CO₂排出量・・・期間内に基準年比60%削減

【問1】公立鳥取環境大学では、県内で様々な取組を行っています。今後も続けてほしい取組や新たに実施してほしい取組はありますか。上位3つを選択してください。

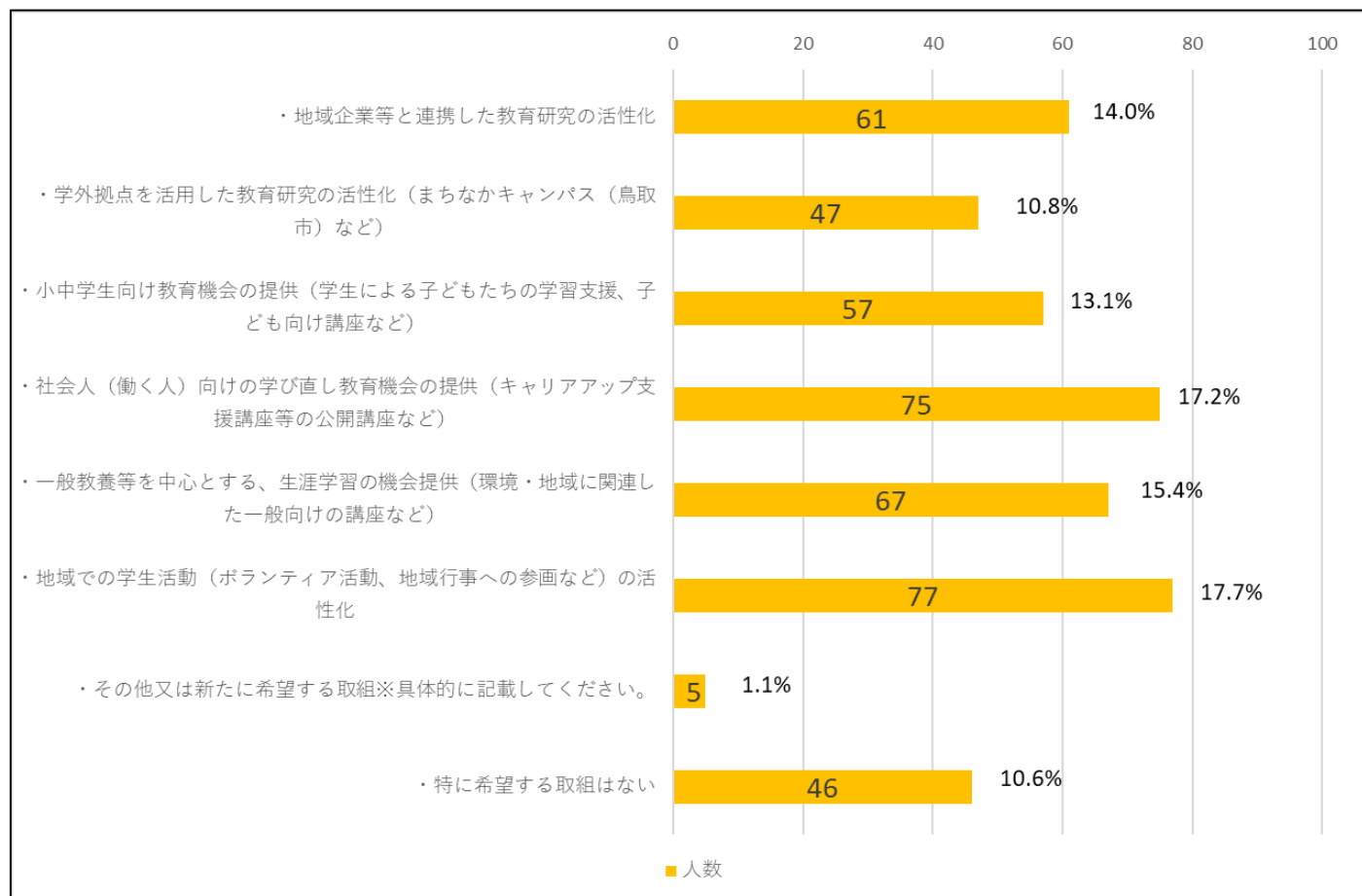
【問1-1】最も続けてほしい取組や新たに実施してほしい取組



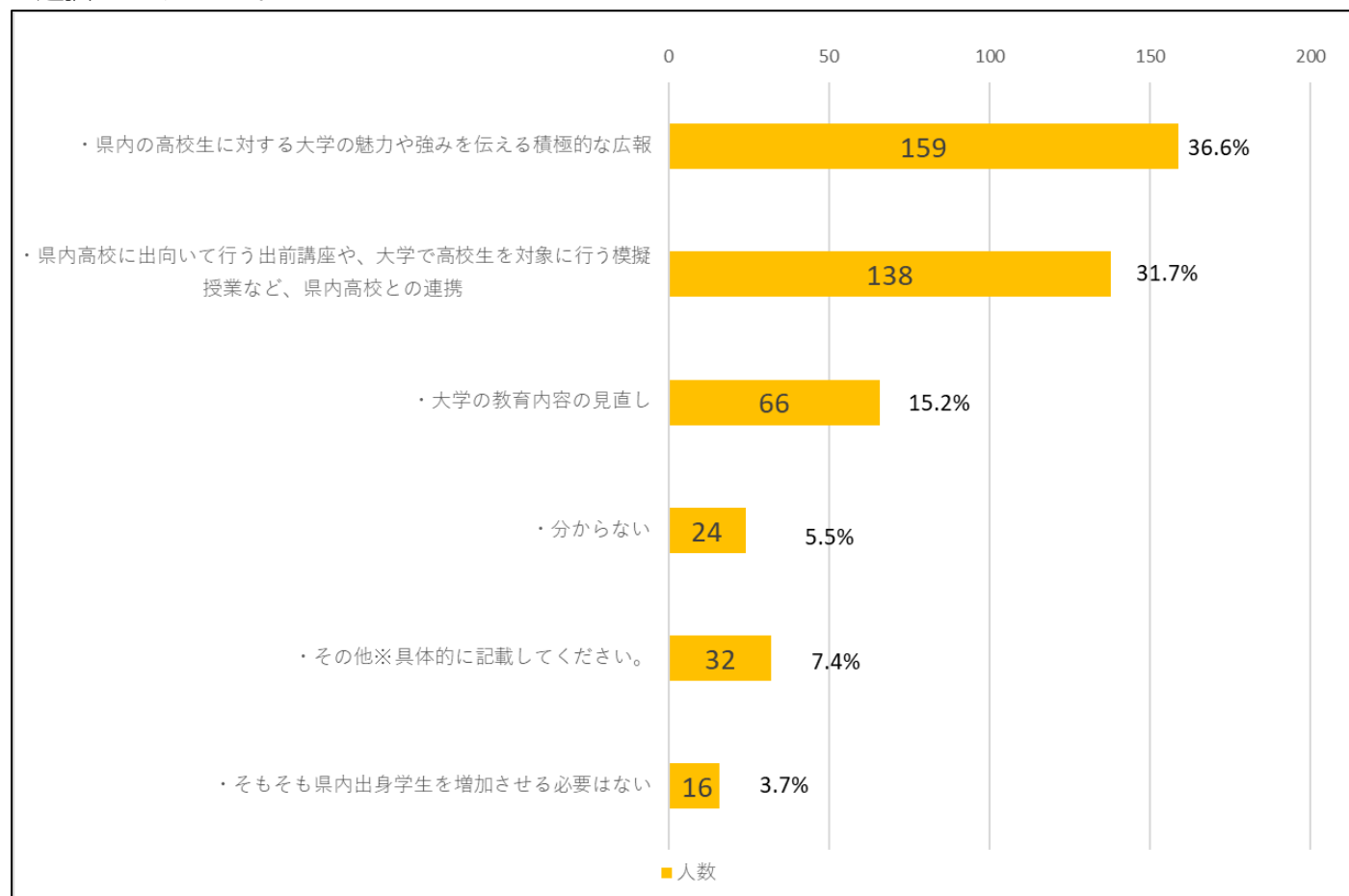
【問1-2】2番目((1)の次)に続けてほしい取組や新たに実施してほしい取組



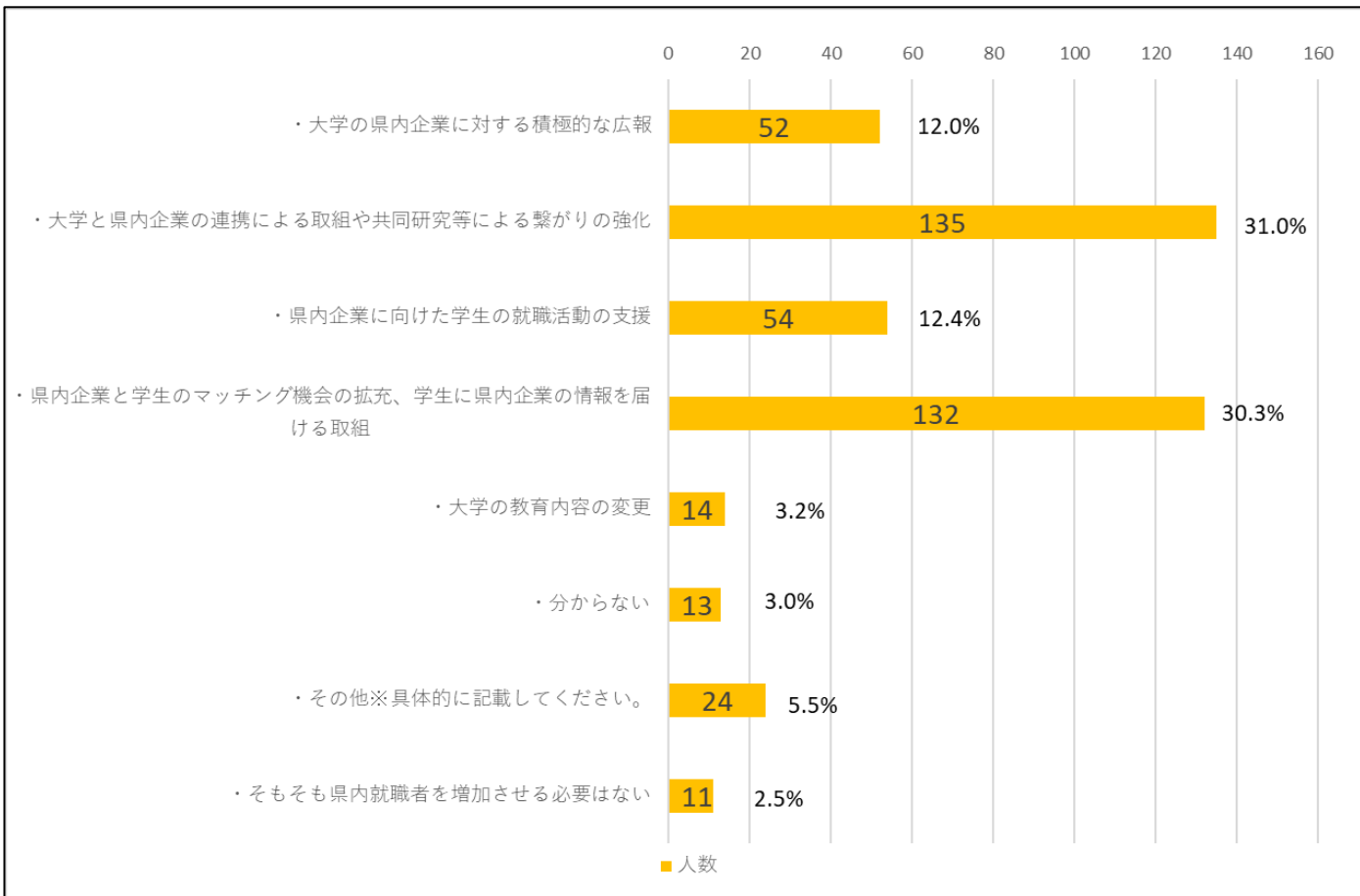
【問1-3】3番目((2)の次)に続けてほしい取組や新たに実施してほしい取組



【問2】公立鳥取環境大学の令和5年度の入試実施状況は志願倍率4.3倍、入学定員充足率は106.7%で、目標である100%を上回りました。一方で、県内入学率は23.4%で、目標である25%を下回りました。今後、県内出身の学生に選ばれる大学となるために特に効果的な取組は何だと思いませんか。当てはまるものを1つ選択してください。

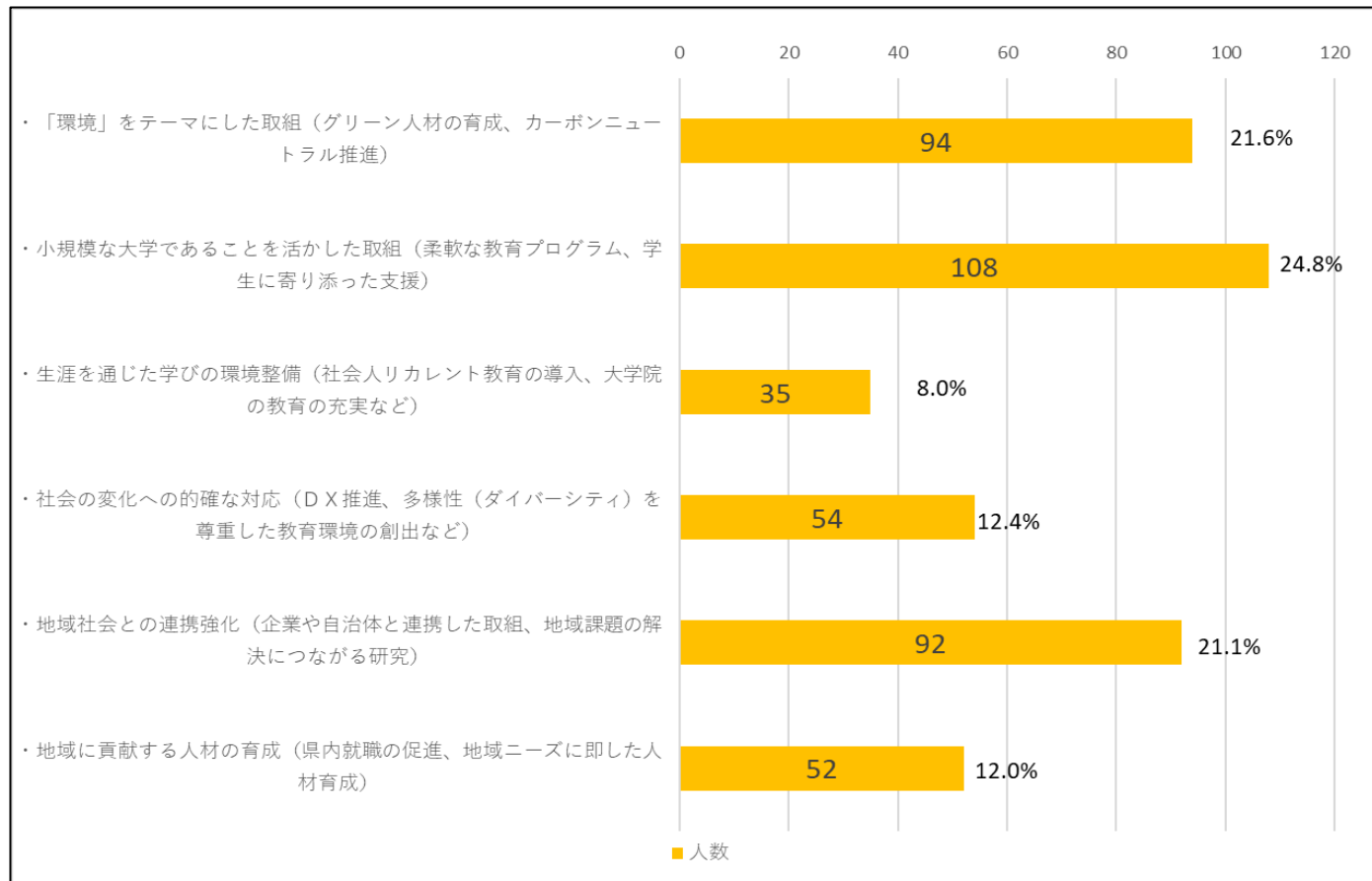


【問3】公立鳥取環境大学の令和4年度の就職率は98.7%と高い数値である一方、県内就職率は21.5%で、年々上昇しているものの、目標である30%を下回りました。今後、県内就職率を増加させるために、設置団体である鳥取県や鳥取市及び県内企業と連携して取り組めますが、公立鳥取環境大学としては特に何に取り組むべきと考えますか。当てはまるものを1つ選択してください。

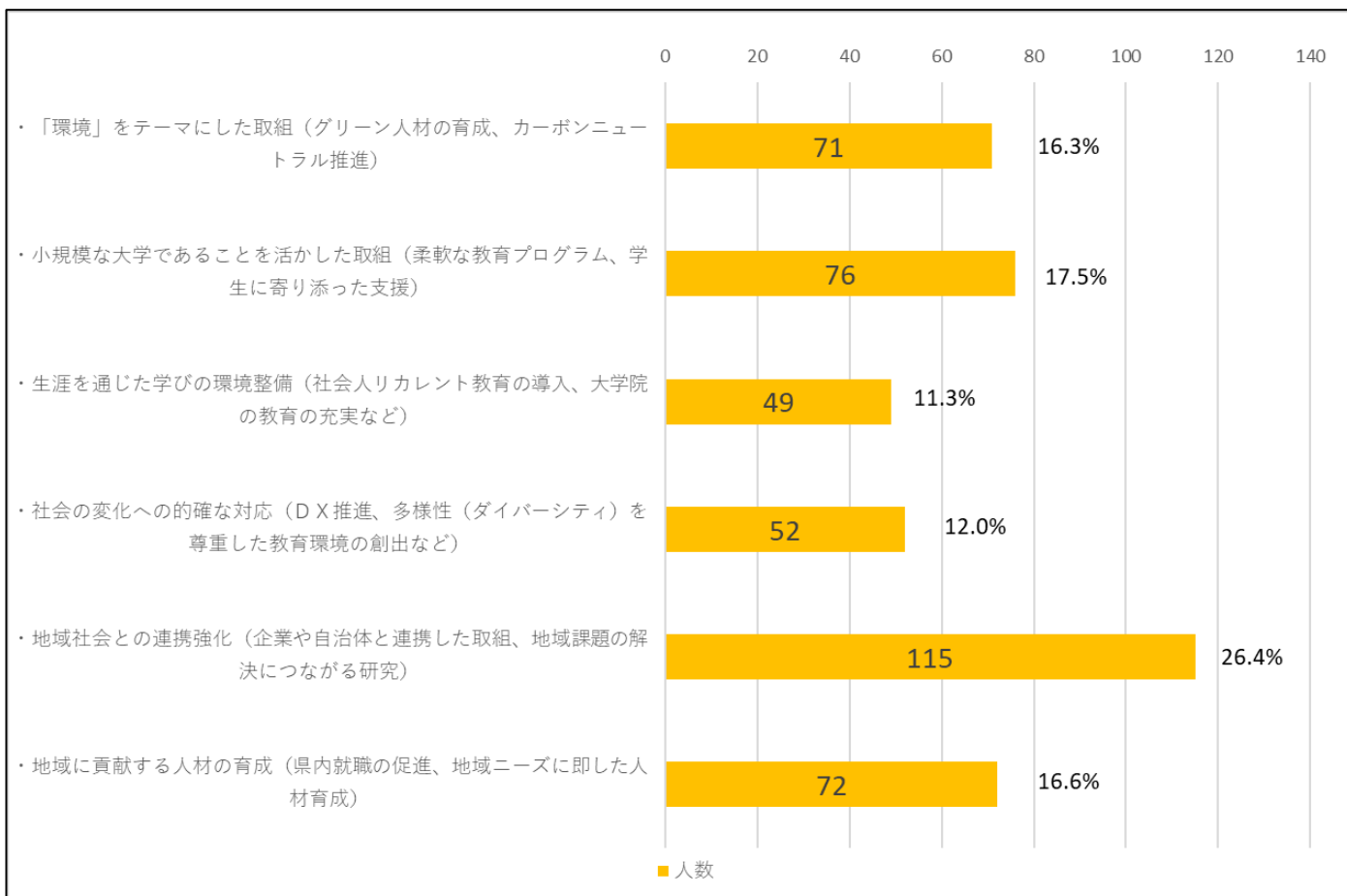


【問4】公立鳥取環境大学が今後力を入れようと考えている取組で、特に重要だと思うものは何ですか。上位3つを選択してください。

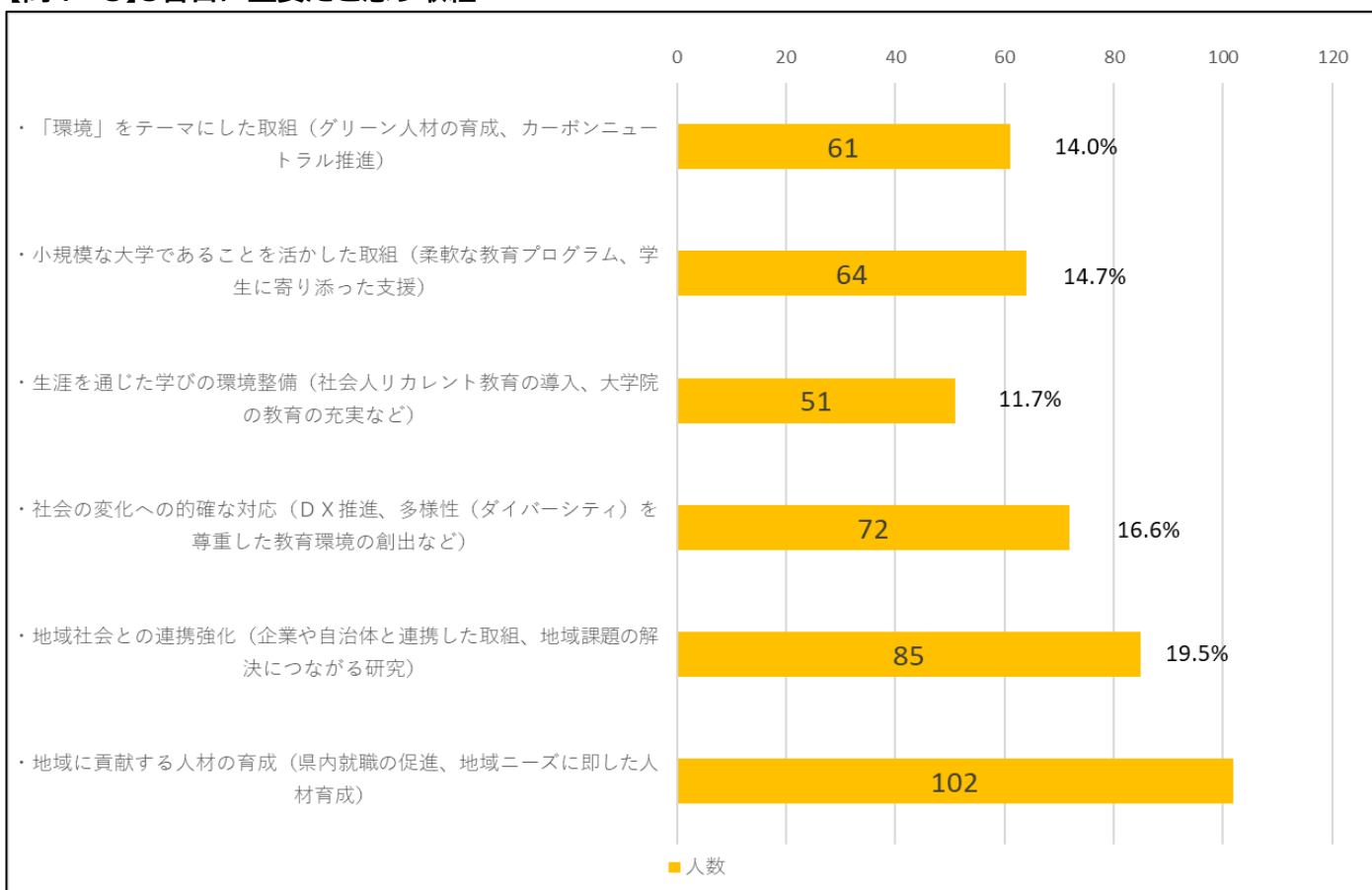
【問4-1】最も重要だと思う取組



【問4-2】2番目に重要だと思う取組



【問4-3】3番目に重要だと思う取組



【問5】第3期中期目標(素案)や、公立鳥取環境大学の今後の取組について、ご意見があれば教えてください。

※自由記載のため省略